

## ◆原体験とは・・・

原体験とは、「触覚」「臭覚」「味覚」を基本とし、「視覚」「聴覚」を含めた五感（五官）を重視した“直接体験”です。かつて原体験は、幼児から小学校にかけての時期に遊びの中で自然に体験してきたものです。自然の中で遊び、ふれあいを通じて育成される思考力、判断力、表現力などが人間としての「生きる力」となっていくと信じています。

## ◆原体験が必要な理由とは・・・

実物に触れながら実際に行う“直接体験”は、いつの時代でも子どもだけでなく、大人にとっても大変重要なものです。特に、子どもの頃に行う“直接体験”は、知恵となり「生きる力」となって普段の生活に生かされます。今まで教育としてではなく、子どもの自主的な活動や遊びとして行われてきた原体験ですが、自然とのふれあう機会の減少などにもなって、都市部・農村部に関係なく減ってきています。

現在の子どもは、学校の教科書からの知識、テレビやインターネットからの情報など“間接体験”による知識はとてもよく身につけていますが、“直接体験”は、絶対的に不足しています。そのため触ったり、嗅いだり、味わったりする活動をともなう“直接体験”（原体験）が現代の子どもに特に必要なことなのです。

## ◆原体験のすすめ方

原体験は、自然物を素材とする体験です。人工的な施設より、土があり、雑草が生え、いろいろな生き物の住む自然の場所が適しています。多くのことを教えるのではなく、その場所で子どもたちが自らの興味・関心によって、五感（五官）を通し、直接自然物を体験することに意味があります。気軽に出かけ、自然物を食べ、嗅ぎ、触れるといったことを、遊びを通して体験することが原体験の基本です。

指導者は、一つひとつの知識を教えるのではなく、子どもの興味・関心をふくらませるような指導が大切なのです。子どもが旺盛な好奇心をもっていれば、特別な指導は必要ありません。原体験をするには、過保護、過干渉を避け、多少の危険はともなっても子どもたちの自由な行動を見守ることが大切なのです。